

## 関ヶ原合戦図屏風

市指定文化財 行田市郷土博物館所蔵

戦国時代や近世初期の合戦の様子を描いた屏風を総称して戦国合戦図屏風といえます。今回紹介する資料は、その中でも際立った特徴がある関ヶ原合戦図屏風です。

屏風の形態は六曲一双といい、右側（右隻）、左側（左隻）それぞれ異なる場面を描き一對の屏風としています。まず、右隻には慶長5年（1600）9月14日に現在の岐阜県大垣市で行われた杭瀬川の戦いを描いています。この戦いは西軍の誘いに乗った徳川軍



関ヶ原合戦図屏風(右隻)

が杭瀬川を渡ったところで待ち伏せに遭い敗走したもので、西軍が勝利した戦いです。左隻は翌15日の合戦当日の様子を描いたもので、関ヶ原町教育委員会や彦根城博物館などが所蔵する屏風と同系統のもので、これに後の大垣藩主戸田氏鉄の様子が書き加えられています。

このように2日

間の戦いを左右で書き分けた屏風は、他に岐阜県内で2点の存在が知られています。杭瀬川の戦いも大垣城下で行ったことを考えれば、本屏風の左隻は彦根藩主井伊家周辺で合戦当日の様子を描いた屏風を祖本として、右隻に杭瀬川の戦いを合わせた六曲一双の屏風が大垣藩主戸田家周辺で作成され、模写されたといったと考えられます。

この屏風が行田に所在する理由は、明治時代の政治家湯本義憲と深い関わりがあります。湯本義憲は市内埼玉の旧家湯本家の当主で、県会議員や衆議院議員を歴任した政治家です。とくに治水問題に造詣が深く、明治23年（1890）の第1回帝国議会で提案した「治水に関する建議」は後の河川法の骨子となりました。その業績を買われ、同30年に岐阜県知事に就任しました。この屏風は、湯本が知事時代に岐阜で譲り受けたものと伝えられています。

愛知県以東の博物館で六曲一双の関ヶ原合戦図屏風を公開しているのは当館だけであり、全国の博物館から展覧会への出品の依頼があるとともに、テレビ番組や歴史系の図書でも多く使用されています。その意味では当館の名声を広めてくれた資料ともいえます。

（郷土博物館 鈴木紀三雄）

## 行田にほんご教室

日本語を母語としない方々に日本の言葉や文化、習慣などを教え、地域社会に溶け込んでもらえるよう活動しているのが「行田にほんご教室」です。

平成19年に活動を始め、現在15人の会員が所属する同団体では、日本語教室を月に4回ほど、コミュニティセンターみずしろで開設しています。教室では、子どもから大人まで年齢を問わず、さまざまな国の人たちに読み書きやあいさつ、電話のかけ方など、生活の各場面に密着した日本語を一人一人の学習レベルに合わせて指導しています。また、七夕や正月など季節の行事を取り入れ、日本の文化に触れる機会も提供しています。

さらに、市内の小・中学校へ毎週出向き、外国籍の児童・生徒を相手に1時間ほど、マンツーマンによる指導を行っています。初めのうちは日本語が全く分からず、日々不安げに学校に通っていた子供たちも、数カ月経つと前向きな姿勢になり、周囲ともコミュニケーションを取れるようになると大変喜ばれているそうです。

「日本語が上手になった子供たちが進学や就職などで巣立っていく姿を見ると、とてもうれしくなります」とやりがいを語ってくれた代表の三友勇さん。国全体で外国人労働者の受け入れも議論される中、多文化共生社会の実現に向け、同団体の活動にますます期待が高まります。

【代表】三友 勇 【電話番号】048-554-9008

## つながる ひろがる みんなのチカラ

～市民公益活動団体紹介～26



自作のテキストなどを使用して親身に指導

### 今月の表紙

1月6日、行田グリーンアリーナ剣道場で行田市剣道連盟による新年の「稽古始め」が行われました。

冷え切った床の上を素足で踏み込み、一心に竹刀を振る剣士たち。その元気な掛け声が、いつまでも場内に響き渡っていました。

■市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。

■市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。

■市報をダイジ版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



環境にやさしい 植物油インキ

市報ぎょうだは 再生紙を 使用しています